

公益社団法人 日本天文学会 理事会議事録

日 時：2025 年 3 月 17 日（月）19 時 00 分～20 時 25 分

場 所：茨城大学（水戸市民会館、オンライン開催）

出席理事：井田茂、野村英子、百瀬宗武、勝川行雄、町田真美、鈴木竜二、酒向重行、安東正樹*、
津村耕司、廿日出文洋、大朝由美子、金田英宏、石川遼子、楠瀬正昭、野澤恵、山村一誠
欠席理事：吉田直紀

*安東理事は 19 時 20 分から参加した。

出席監事：松尾宏、山田亨

また、佐藤事務長、黒岩事務長補佐、田口谷事務長補佐、オブザーバーとして 2025 年秋年会開催地責任者の新沼浩太郎氏が参加した。

I. 確認事項など

I-1. 議事に先立ち、出席者が 16 名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。

I-2. 井田会長、野村副会長、百瀬副会長、松尾監事、山田監事が署名人となることを確認した。

I-3. 前回議事録の確認

資料 2 に基づき、前回（2024 年 12 月 26 日）の理事会議事録が報告され、承認された。

II. 議題

本理事会の各議題は、井田会長より提案され、各担当理事に詳細説明を指示した。

II-1. 新規加入者の承認（資料 3、町田）

2024 年 12 月 21 日～2025 年 3 月 10 日までに正会員入会申請 19 名、準会員入会申請 3 名、2025 年度からの正会員入会申請 2 名、準会員入会申請 4 名、準会員から正会員への移籍 3 名の申請があった。賛成多数で承認された。

II-2. 年会開催地について（資料 4、勝川）

2026 年 9 月の秋季年会を岡山理科大学にて、2027 年 3 月の春季年会を埼玉大学にて開催することが提案された。固定地開催の会員への周知時期に関して質問があり、6 月の代議員総会での周知を目指しているとの回答があった。賛成多数で承認された。

II-3. 次期委員会委員について（前回理事会未承認分）（資料 5、勝川）

昨年 12 月 26 日の理事会で未決定であった次期委員会の委員長・委員候補が提示され、賛成多数で承認された。

II-4. CoC 英語版の承認（資料 6、野村/勝川）

日本語を非母語とする会員のために、2024 年 12 月 26 日の理事会と 2025 年 1 月 14 日の代議員総会にて承認された日本天文学会行動規範の英語版が提示された。賛成多数で承認された。

II-5. PASJ からの議題（資料 7、安東）

2026 年購読料およびオープンアクセス論文掲載料(APC)に関して OUP からそれぞれ提案があり、前者は 3%、後者は 1%の値上げが提案された。鈴木会計理事より、例年は実務理事会での承認で

決めていたが、本理事会で議題に上がっている理由が問われた。これに対し、黒岩事務長代理より、OUP からの価格改訂の打診が例年よりも早かったため、理事会の議題に掲載したことが返答された。通例通り、会計理事が精査の上、実務理事会で承認することとした。

III. 報告

III-1. 移籍・退会等の報告（資料 3、町田）

2024 年 12 月 21 日～2025 年 3 月 10 日までに正会員退会 5 名、2025 年度から正会員から準会員への移籍 12 名があったことが報告された。

III-2. 電磁的決議の結果について（資料 8、鈴木）

星の手帖社様から使途を定めない寄付(500 万円)を受領したため、電磁的決議によって、その使途として「林賞事業に割り当てる」こととなったことが報告された。

III-3. 年会新システム等について（資料 9、鈴木）

年会実行委員会から提案されている「年会新システム」および年会の固定開催地化は、どちらも継続的な予算を要する計画であるため、調査を開始したこと、2025 年 6 月の理事会で議決したいことなどが報告された。これに対し、年会講演の投稿システムは 20 年以上継続していることから、会員への影響が大きいこと、現在のシステム管理者との問題の共通認識を持つことの重要性が指摘された。全体の意向統一を図るための打ち合わせを行い、具体的な問題点を把握した上で決定することが確認された。また、固定開催地化の運用方法について質問がなされ、現地世話人は関東圏の機関に持ち回りで担当してもらうことを想定しているが、1 回目は試行の面もあり会場に近い埼玉大学に引き受けて頂いたこと、実際に運用して問題点の洗い出しを行うことが答えられた。

III-4. 行動規範細則について（資料 10、野村）

行動規範の策定に際し、「行動規範に関する細則」および「相談窓口のフロー」、「コンプライアンス委員会の内規」の一部の修正をする必要があり、検討内容が報告された。

III-5. 年会実行委員会からの報告（資料 11、廿日出、百瀬、野澤、新沼）

2025 年春季年会が、2025 年 3 月 17 日 - 20 日の日程で、水戸市民会館にて茨城大学の主催のもと開催中であること、3 月 17 日 11 時の集計で、参加登録者数 1040 名、講演数 613 件、講演者数 595 人、聴講者は 445 人、現地参加者は 858 名年会に登録していること、懇親会を 19 日に開催予定であることが報告された。これに対して、オンライン講演の登録状況と実際の状況について質問がなされ、申し込み時点では 26 名であったこと、オンラインから現地、または逆の変更などがあり、概ね 30 数件で前回と同程度の水準であることが返答された。開催地からは、トラブルへの対処法は状況によって異なるため難しいことも報告された。2025 年秋季年会は、海峡メッセ下関(山口大学)にて、2025 年 9 月 9 日 - 11 日に開催予定であること、企画セッションは募集すること、講演会は同じ週の週末に行うこと、大ホールをパーティションで区切って 3 会場作る予定であること、オンライン講演は努力目標であることなどが報告された。

III-6. 天文教育委員会からの報告（資料 12、大朝）

2025 年春の年会で、天文教育フォーラム「天文教育における STEM/STEAM とこれから」を開催したこと、講師紹介プログラムでは、依頼 2 件、仲介 1 件、不成立 1 件があったこと、監修者紹介

プログラムには5件の依頼に紹介したこと、ジュニアセッション後に、第2回の中高教員・中高生向けの講演会<中高生・教員と若手研究者の「天文対話」>を開催予定であること、IAU OAEのNAEC日本チームの代表がIAU分科会に参加し活動を報告したことが報告された。

III-7. PASJからの報告（資料7、安東）

本文掲載料の半額キャンペーンの告知を会員全体集会、天文月報(118巻4号)、TENNETで行うことが報告された。

III-8. 外部理事・外部監事への対応について（資料なし、勝川）

令和7年4月より、公益法人に対して、理事・監事、それぞれ1名以上は直近10年間で理事、代議員を務めていない外部者とするのが要請されている。次期監事候補は直近10年間で理事経験者であることが庶務理事より報告された。これに対し、現監事から、現在の2名体制は庶務的なものを対応する監事と会計を確認する監事で役割分担を行っている。実情を知らない方では対応できないのではないかという懸念が表明された。監事2名のまま1名を外部監事とする案、監事を3名として1名を外部監事とする案が提案された。今後、どのような方に外部監事を担当してもらうか検討を行うこと、監事の人数は定款で定められているため、3名とする場合、先に定款の改訂が必要であることを確認した。

III-9. 事務長の退任に関して（資料なし、勝川）

佐藤事務長が3月末日で退職されることが報告された。これに対し、会長より長年の尽力への謝意が述べられた。後任が着任するまでは、黒岩事務長補佐が事務長代理を務めることも合わせて報告された。

[資料リスト]

資料1 理事会出欠表

資料2 公益社団法人日本天文学会理事会（2024年12月26日）議事録（案）

資料3 加入者・移籍の承認、退会者報告（2024年12月21日—2025年3月10日）

資料4 日本天文学会年会(2026年9月、2027年3月)開催地について

資料5 2025—2026年度委員候補者リスト

資料6 日本天文学会行動規範（Code of Conduct）の英語版

資料7 PASJ 編集委員会からの議題と報告

資料8 寄付金の使途に関する電磁的決議

資料9 年会新システムと開催地固定化に係る費用の検討について

資料10 行動規範に関する細則およびコンプライアンス委員会の内規の一部改定

資料11 日本天文学会理事会 2025年3月年会実行委員会活動報告

資料12 天文教育委員会 前回理事会（2024年12月19日）以降の活動報告（2025年3月7日現在）

2025年3月17日

会 長：井田 茂 印

副会長：野村 英子 印

副会長：百瀬 宗武 印

監 事：松尾 宏 印

監 事：山田 亨 印